



2015年度 年主題『平和』をつくる

0・1・2歳児10月主題 「みて、みて！」

月のねがい

- ◎保育者や友だちと共に体を動かす喜びを感じる
- ◎自分の思いを伝える
- ◎季節の移り変わりを感じ、身近な自然と出会う

3・4・5歳児10月主題 「きもちがいい」

月のねがい

- ◎友だちと共にいることを喜び、体を動かすことを楽しむ
- ◎季節の移り変わりを感じ、身近な自然とふれあう
- ◎夢中になって遊びこむ中で、探索や発見、試行錯誤する。



ぐりとぐらのテーマで...

今年度の運動会のテーマは、ご存じ「ぐりとぐら」です。ぐりとぐらは、世界中で翻訳されているほど多く親しまれています。その内容は大人も子ども、彼らの生活がうらやましく思えるほど、引き込まれてしまいます。

作者の想いが綴られた本を読み返すと、驚いたことに作者の子どもたちに対する考え方がとても似ているということです。「ぐりとぐらの話は、たいてい午前中の出来事。子どもの生活は午前中なんです。午後は、おまけ。だから私ね、子どもが朝いつまでも寝てるっていうのは許せない。子どもはお日様と一緒に。夜は早く寝て、朝は起きるっていうのが子どもの生活だと思うんですね。午前中いっぱい遊んで、お昼を食べた後は昼寝して、グダグダして、夕方になるとお母さんからにらんだりして、ぶうたれて、晩ご飯食べてちょっと元気になって、お風呂入って、本読んでもらってコトコトと寝るっていうのがよい子の一日。よい親もそれに合わせなきゃいけない。何かいいことさせようと思ったら、午前中。だから私の話はみんな午前中なの。」と、作者の中川さんがおっしゃっています。ますます、ぐりとぐらと子ども園が身近に感じられ、作者と私たちの想いが共通していることに気づかされました。

運動会の見どころの1つでもある野外劇も、一層気持ちを入れて取り組んでいます。昨年よりずいぶんたくましくなっていますし、年長さんが少ない人数でも、それを感じさせないほど全員が意欲的です。昨年は、二度の台風を経てようやくできた運動会!!今年も、予定通りに行えたら嬉しいです。保護者の皆様にもたくさんのご協力をいただきます。どうぞ、よろしくお願致します。

森山

今月の聖句

「あなたのめぐみをわたしはたのしみ、よろこびます。」

詩編31:7

イスラエルの王ダビデの詩です。ダビデはその生涯において、神から受けた恵みに対し、心からの感謝を歌にしました。今月のキーワードは「あなた」と「めぐみ」と「喜び」です。

「あなた」とは二人称単数のことばで、相手が近くにいる時この呼称が使われます。たとえば、妻が夫を呼ぶときに「あなた」と呼びます。離れている時に「あなた」とは言いません。もし言ったとしたら、距離は離れていても夫を愛し、夫がいつも一緒にいる実感と共に、眩暈として、「あなた」と呼ぶがかもしれません。それはそれで、誌的であり、愛の極致として尊いことです。

さて、ダビデが「あなた」と呼んだ相手は天地創造の目に見えない神さまだったのです。彼は、信仰によって神を真近かに感じ、日々の出来事の中に神が共にいて、見守り、祝い、数々の恵みを与えてくださることをとても喜び、日々感謝したのです。

「めぐみ」とは、世の父親や母親が自分の子どもに一方的に必要なものを与え、かつ、見守る行為や思いです。神の愛は親の愛、特に母親の愛に例えられます。わが子のために、喜んで犠牲を払い、育て、訓育します。それが親というものです。

「喜び」とは受けた側の感謝の反応です。ただ、「願い通りになってよかった、よかった。」というばかりではなく、「ありがとう」の感謝の言葉と行為が返って来ると、恵みを施した親はますます子を愛するようになります。神も同じです。感謝をささげる時に、神はますますその人を慈しんでくださるのです。日常生活で感謝すべきことを数え上げてみましょう。

前理事長 池田公榮

10月の行事予定

3日(土)	運動会(市市民体育館)
4日(日)	運動会予備日(種子島高校体育館)
5日(月)	振替休日(1号)
7日(水)	いもほり
11日(日)	市民体育祭参加(年中長児)
15日(木)	遠足、弁当日
17日(土)	ふれあい運動会(未就園児)
20日(水)	10・11月誕生会
27日(火)	すもう大会(年長・年中)
28日(水)	〃(年少・あじさい)
29日(木)	交通安全教室(年長児)

11月の行事予定

8日(水)	黒潮文化交流の祭典(年長児)
14日(土)	入園説明会(11:00~)
18日(水)	牛見学
25日(水)	クリスマス会予行練習

～ふれあい運動会～



～すもう大会～



～うし見学～



～いもほり～



～すもう大会～



子どもの頃の呪縛から抜け出すには

山口 創 著

スキンシップにかかわる深刻な問題があります。スキンシップが大切だとわかっていてもどうしてもできない。それどころか、虐待してしまうかもしれないと悩んでしまうお母さんもいるのです。

それは自分が子ども時代に虐待を受けたため、今も自分の性格に影を落としていて、かわいがられている赤ちゃんに強い嫉妬と憎しみを感じるというケースです。

そんな自分はわが子をかかわいがれるはずがないと悩んでいるのです。

これでは虐待の連鎖になってしまうかもしれません。でもこのように悩みの原因が自分の体験にあると自覚しているのは救いがあります。

手だてがないわけではありません。彼女のような人こそ、人との触れあひが必要です。

実際に私がみてきたケースですが、子育て支援のプログラムで母親同士でマッサージをしたり、ペアになって子育ての悩みを人に聴いてもらったりするだけで、泣き出すお母さんが少なからずいるのです。人に言えない悩みを打ち明けることで気持ちが楽になったのでしょうか。

また、マッサージしてもらい人に受け入れてもらうことで、

自分を責めて自身を受け入れられない辛さが軽くなり、優しく背中をなでさせてもらうことで、人の温かさが身にしみてくるのです。その温かさは、親から受けた辛い経験で凍っていた自分の心を少しずつ溶かしてくれます。

なぜなら人と触れあうことで愛情ホルモン・オキシトシンが脳に増えていくからです。それを続けていくうちに少しずつ気持ちが変化していき、いつの間にか赤ちゃんへのわだかまりも消えていくでしょう。

そうして赤ちゃんをかわいいと思えるようになれば、愛おしいと心から感じられるようになればもう大丈夫です。過去の呪縛から抜け出しつつあるということになるでしょう。悩んでいる方は、このように解決の方向はあるのですから、悩みを悩みのままにしないでください。

※「脳はだっこで育つ」 より抜粋



園長



ゆいろうごせんゆいろうごせんゆいろうごせんゆいろうごせんゆいろうごせんゆいろうごせんゆいろうごせんゆいろうごせんゆいろうごせん 10月園だよ! ゆいろうごせんゆいろうごせんゆいろうごせんゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん

ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん

ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん

ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん ゆいろうごせん